

第8回利賀ダム環境検討委員会 議事要旨

開催年月日／会場	議 事	出席委員(敬称略)	議事要旨	
令和3年2月9日 Web会議(MeetingPlaza)	①第7回委員会の指摘事項と対応 ②環境レポートについて ③モニタリング調査計画について	阿部 學(日本猛禽類研究機構理事長) 池本 良子(金沢大学理工研究域 地球社会基盤学系教授) 大井 徹(石川県立大学生物資源環境学部 環境科学科教授) 田中 晋(富山大学名誉教授) 中田 政司(富山県中央植物園園長) 中村 浩二(石川県立自然史資料館館長) 南部 久男(元富山市科学博物館館長)	第7回委員会の指摘事項と 対応	・外来種対応について、アレチウリの駆除はダムにおける事例もあるので検討してほしい。
			環境レポートについて	・環境レポートを Web による公表とすることについて了解。
				・これまでの調査により昆虫類は約3,000種みつかり、60種が重要種、影響をうけるのは1種となっている。これからのモニタリングは影響を受けるとされている1種だけではなく、他の種についても広く調査を実施したほうが良い。
				・新しいものが確認されたときには適宜対応してほしい。
				・丁寧につくられており、一般の人にわかりやすい表現になってよい。今後は、環境保全への取り組みを確実に実行すること及びモニタリングが重要となる。
				・ダムができることによって大型の魚類の餌になるような動物や植物がどうなっていくのか関心がある。事前の調査はかなりやられているだろうから、ダム完成後の湛水中、湛水後の追跡調査をすすめてほしい。
				・環境レポートについて、この構成、内容で公表することを了承する。
			モニタリング調査計画につ いて	・水質調査について、定期水質調査と環境保全措置の確認調査の調査地点が重なっておりわかりにくい。また、出水時の調査の時期については、どの程度の規模の出水を対象とするか、考え方を整理しておくとい。
				・動物の移殖にあたっては、移殖元や移殖先に生息する他の生物や場所の状況に関する情報が必要と考えられるため、幅広く調査してほしい。
			その他	・本委員会の目的である環境レポートが完成したため、第8回委員会を持って本委員会を閉会することについて了承する。